

日 時：平成 27 年 3 月 10 日 (火) 18:00~20:00

場 所：早稲田大学西早稲田キャンパス 55 号館 S 棟 2 階 第 3 会議室

出席者：朝位孝二（代理：赤松良久）、浅沼順、天野光歩、池田駿介（顧）、石平博、泉典洋、今村正裕、大石哲、大槻英樹、大本照憲（オ）、沖大幹、風間聡、川越清樹、河原能久、河村明（オ）、神田学、里深好文、清水義彦、清水康行、鈴木正人、杉原裕司、角哲也、関根正人、竹林洋史（オ）、立川康人（幹事長）、田中規夫、田中仁、田中昌宏、知花武佳、辻本哲郎（顧）、藤堂正樹、戸田祐嗣、富永晃宏、中川一（顧）、中北英一、中嶋規行、中津川誠、仁瓶泰雄、原田守博、福濱方哉、藤田一郎、堀田哲夫（オ）、堀智晴、松田寛志（オ）、道奥康治（委員長）、武藤裕則、渡邊勝利、渡辺康玄、渡邊泰也（50 音順、敬称略、（顧）顧問、（オ）オブサーバー）

《報告事項》

1. 平成 25-26 年度水工学委員会

2 頁

今回は委員長候補者選挙を実施するため、定足数が確認された。委員 50 名の 2/3、34 名をもって会が成立する。委員の出席は代理人 1 名を含めて 41 名であった。委任状が 5 名から提出されており、委任状を合わせて 34 名以上の委員の出席が確認されたため、会が成立していることが確認された。委員長から開会の挨拶があった。

2. 各部会、小委員会、関連委員会の活動報告及び活動計画（各部部长、小委員長、幹事）

3 頁

- 部会：水文部会、基礎水理部会、環境水理部会、河川部会
- 常置小委員会：地球環境水理学、東南アジア河川、ISO/TC113、流量観測高度化、水害対策
- 出版関連：水理公式集編集小委員会、水理実験指導書編集小委員会、論文編集委員会
- 関連委員会：海岸、沿環連、地球環境、環境システム、流域管理と地域計画の連携、河川懇談会、CommonMP、（下線は資料あり）

部会、小委員会、関連委員会の活動報告及び活動計画が報告された。下線のついた部会・小委員会等は資料があるので詳しくはそちらを参照されたい。水害対策委員会の活動が活発になされており、昨年実施された災害調査や報告会の紹介があった。専門家を対象とした報告会も大事だが、市民に対する啓蒙活動も積極的に行ってほしいとの意見があった。大島の土砂災害については、そうした活動も実施したとの報告があった。出版に関連して、以下が報告された。

- 水理公式集の編集が順調に進んでおり、5 月末に第 3 次原稿が締め切られる。この後で最終的は編集作業に入り、6 月以降、出版社を選定する。
- 水理実験解説書が予定通り発刊されたことが報告された。データシートは水工学委員会ホームページからダウンロードできるように設定されている。

3. 水工学委員会ホームページについて（幹事長）

4 1 頁

朝位委員により迅速なホームページへの情報アップと管理が行われている。この 2 年間で水シンポジ

ウムや夏期研修会、小委員会のページを充実させて、アクセスも容易にしたこと、様々な情報の蓄積が進んでいることが報告された。

4. 平成 27 年度第 20 回水シンポジウム（福井）について（幹事長） 4 2 頁
基礎水理部会でセッションを一つ運営することが報告され、順調に準備が進んでいることが報告された。
5. 平成 27 年度第 51 回水工学に関する夏期研修会について（今村委員） 4 3 頁
参加費は現状の通りとすること、カラー印刷は費用の点で難しいのでCDを添付することが企画されていることが報告された。
6. 平成 27 年度第 60 回水工学講演会について（風間委員） 4 5 頁
会場の予約がなされていること、懇親会会場について学内会場で実施するか学外するか検討中であることが報告された。
7. 高橋裕先生の Japan Prize 受賞と記念講演会・祝賀会について（委員長） 4 9 頁
土木学会としての記念講演会・祝賀会が以下の予定で開催されることが報告された。
 - 日時：5 月 18 日（月）午後 16 時から記念講演会、18 時から祝賀会
 - 場所：日本教育会館近日中にホームページを通して申し込みができるようになる。
8. 今回の水工学講演会に関する報告（編集幹事長） 5 0 頁
 - 水工学論文集の編集での課題について報告がなされた。投稿件数が減少していることについて、分析が必要であるとの指摘があった。
 - 今回から導入された土木学会論文集通常号掲載論文の水工学講演会での発表について報告があった。
 - 改善点としてプログラムの英文化を進めることが指摘された。
9. 平成 28 年度第 21 回水シンポジウムについて（幹事長） 5 4 頁
新執行部の体制が固まったら、早急に平成 28 年度の水シンポジウム開催県を決定する必要があることが報告された。
10. 平成 28 年度第 52 回水工学に関する夏期研修会について（幹事長） 5 5 頁
平成 28 年度は東北での開催であり、河川が幹事となることが報告された。
11. 平成 28 年度第 61 回水工学講演会について（幹事長） 5 6 頁
新執行部の体制が固まったら、早急に平成 28 年度の水工学講演会開催校を決定する必要があることが報告された。

12. その他（委員長）

歴代水理委員長、水工学委員長などの業績を残す活動が日野先生によって行われており、水工学委員会に情報提供などの依頼があるかもしれないことが報告された。

《協議事項》

1. 土木学会論文集 B 部門合同編集小委員会の次期委員推薦について（幹事長） 57 頁
原案通り、佐山 敬洋氏（ICHARM）、内田龍彦氏（中央大学）を次期委員に推薦することが承認された。
2. 平成 27 年度全国大会 研究討論会について（幹事長） 58 頁
CommonMP 関連の応募があり、これを第一位として提案することが承認された。3 月 13 日が提案締め切りであり、それまでに新たな提案があれば、申出順に順位を付けて提案することが承認された。
3. 河川技術シンポジウムでの賞の創設について（松田委員） 59 頁
第 12 回 ISRS（The 12th International Symposium on River Sedimentation）実行委員会事務局（LOC 委員長：福岡捷二教授、事務局長：中川一教授）から、水工学委員会が行う活動に対して「土木学会学術文化事業」指定型への寄付が平成 25 年度になされた。それを原資として「河川技術論文賞」を創設することが承認された。「2016 河川技術に関するシンポジウム」から実施するために詳細を今後詰めていくこととなった。
4. 「強靱化（強くしなやか）委員会」からの意見徴収について（委員長） 66 頁
強靱化委員会の報告書がまとめられ、その意見徴収が求められている。3 月 19 日が回答期限のため、意見がある場合はそれまでに委員長に連絡することとなった。
5. 「社会インフラ健康診断特別委員会（仮称）」設置について（戸田委員、委員長） 72 頁
当委員会の設立趣旨が説明され、平成 27 年度は河川に関連するインフラ健康診断がなされることが説明された。現在、任命されている委員では手が足りなくなる可能性があるため、角委員が新たに当特別委員会に加わることとなった。
6. 新顧問の推挙（委員長）
寶 馨前委員長が顧問に推挙され承認された。
7. その他
池田駿介顧問が今年度をもって顧問退任となるため、挨拶があった。

《次期委員長候補者の選挙》

中北英一教授（京都大学防災研究所）が次期委員長候補者として選出された。